

空路塚

1. 所在地 国分寺町新名字前谷78番1
2. 調査主体 国分寺町教育委員会
3. 調査期間 平成5年11月9日～16日
4. 調査面積 30m²
5. 調査担当者 国分寺町教育委員会 松尾忠幸
6. 調査に至る経過

当該地は国分寺町の西側に位置し、坂出市府中町に接する。その約300m南側には国指定史跡府中山内瓦窯跡が存在する。この窯跡からは国分寺で使われた奈良時代から平安時代中期までの軒瓦が出土している。今回共同住宅建設工事の計画が上がったため、事前に塚の範囲及び集落遺構等の確認の試掘調査を実施することになった。ただし、塚については周囲を区画し現状保存することで土地所有者と合意を得、塚本体の調査は行わないこととした。

7. 調査結果の概要

調査は塚の南側と北側、さらに北側に2m×5mの南北方向のトレンチを3本設定した。塚南側に設けた調査区では塚裾から土鍋脚片が出土しただけで表土下に地山（黄褐色粘質土）を確認したが、遺構は存在しなかった。また、塚北側の2つの調査区でも遺物・遺構は存在しなかった。地山は南から北にかけて緩やかに傾斜しており、旧地形を保っていると思われる。

8.まとめ

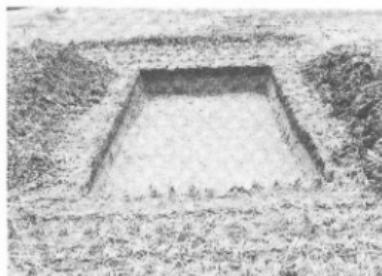
試掘調査の結果、塚は南北2.5m、東西7.2mの規模で中世の所産と思われる。その他、特に遺物・遺構は検出されず、土層においても人為的な盛土・攢乱等は認められなかった。したがって、当該地の本調査は不要と判断された。（松尾）



第1図 遺跡の位置



第2図 調査区全景



第3図 塚南側調査区

坊主山古墳

1. 所在地 高松市神在川窪町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成5年10月15日～11月10日
4. 調査面積 約350m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山元敏裕
6. 調査の原因 土取り工事
7. 調査結果の概要

神在川窪町の通称坊主山において土取り工事が行われるため、埋蔵文化財の確認調査を行った。坊主山の最頂部は戦後すぐに盗掘が行われており、遺構の所在は確認されていたが、記録が残っていないため、詳細な状況は不明であった。調査は最頂部付近を中心tronにトレンチを設定し実施した。結果、予想のとおりに古墳の所在を確認することができたが、斜面の崩壊や古い盗掘により大きく破壊されていた。古墳は11×8mの楕円形で主体部は2基確認できた。第1主体部は竪穴式石室であり、長軸1.8m以上、短軸0.6mであり、第2主体部は箱式石棺で、長軸1.75m、短軸0.5mの規模をもつ。供献遺物は確認することができなかった。

8.まとめ

後世の盗掘により、遺構の残りは悪かったものの古墳の構築過程等確認できる資料は得られた。主体部の切り合い関係から第1主体部が先行し、時間をおかず第2主体部が構築されたと考えられる。遺物が出土していないため時期は不明であるが、周辺には古墳時代前期と考えられる住吉神社西古墳が南西280mに存在するだけで、単独墳であることを考えれば古墳時代前期頃の時期が考えられる。(山元)



第1図 遺跡の位置



第2図 坊主山古墳墳丘（西から）



第3図 第1、第2主体部検出状況（東から）

藤尾城跡

1. 所在地 高松市香西本町468番地
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成5年12月9日～17日
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山元敏裕
6. 調査の原因 宇佐神社社務所建設
7. 調査結果の概要

宇佐神社社務所建設予定地は、香西氏末期の本城である藤尾城が存在していたところである。社務所建設に際し藤尾城関係の遺構が存在している可能性が考えられたため、予定地に十字のトレンチを設定して遺構の有無を確認した。調査の結果、当初予想された藤尾城に関係する遺構は確認できず、18世紀半以降と考えられる石組状遺構、ピット、集石等を確認した。これらの遺構は出土遺物等から後世の神社に伴う遺構と考えられる。

8.まとめ

調査の結果、後世の削平により藤尾城跡に関係する遺構は確認できなかったが、それ以降の当地の変遷の一部を確認できた。調査範囲が狭く調査地が斜面部に近いこともあり全体の状況は不明であるが、藤尾城跡に関する調査は今回が最初であり、藤尾城以降の遺構の存在も確認されていることから今後も事前の確認調査が必要である。(山元)



第1図 遺跡の位置



第2図 トレンチ完掘状況（東から）



第3図 石組遺構検出状況（北から）

キモンドー遺跡

1. 所在地 高松市伏石町1100番地
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成5年8月4日～11月30日
4. 調査面積 3,100m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会
山本英之 中西克也
6. 調査の原因 都市計画道路朝日町一仏生山線建設
7. 調査の概要

調査区は北側から1～3工区に区分し、1工区から調査を実施した。1工区では近代の出水と弥生時代の溝・井戸状遺構・旧河道を検出した。出水は3×2mの長方形を呈し、四方は石組みであり、下方は立板と横木によって補強されていた。溝・井戸状遺構は旧河道の埋没後の微低地で検出した。

2工区では南北と東西方向の溝とピットが検出した。東西に伸びるSD05はその位置と近世の陶磁器を多量に出土したことから、古井戸と何らかの関係があると考えられる。

3工区では弥生時代・中世(16世紀末)・近世の遺構が検出した。弥生時代としては溝と竪穴住居址がある竪穴住居址は円形に配列された柱穴のみであるが、試掘調査で近くより後期の壺が出土しており同時期と考えられる。中世の遺構は逆L字形状を呈する堀跡である。検出した長さは約30mであり、上場の幅約4m、下場約1.7m、深さは確認面より1～1.8mを測る。堀の両側には一段ないし二段の石垣が残存している。石は割石である。南東コーナーの内側には大きな石が要石としておかれており、東西方向の堀には東側に面をもつ間仕切りの石垣が2ヶ所ある。出土遺物は底面よりや上から摺鉢・陶磁器・漆塗り椀などがあり、間仕切りの石垣の間より備前の摺鉢片が出土した。前者は18世紀、後者は16世紀後半のものと考えられる。また、堀に囲まれた内部では大規模な埋め立てが行われたことが判明し、下駄や漆塗り椀が出土した。江戸時代になると、堀は完全に埋め立てられ、その後につくられた石星・据立柱建物・蔵跡が検出された。

8.まとめ

本調査の最も大きな成果は16世紀後半の堀跡の検出である。この付近は、香西氏の武将・佐藤孫七郎の居城である「佐藤城」があったと考えられていたが、その詳細は不明であった。検出された堀跡は北側の用水路および「キモンドーさん」と呼ばれる祠より南へ約100m離れている。方一町の敷地をもつ「方形館」といわれる佐藤城の南東隅にあたる部分と考えられ、居城の位置を正確にすることは重要である。また、江戸時代の建物を検出したことも注目される。(中西)



第1図 遺跡の位置

日暮松林遺跡

1. 所在地 高松市多肥下町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成5年10月26日
～平成6年3月30日
4. 調査面積 4,790m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会
山本英之 中西克也
6. 調査の原因 都市計画道 福岡多肥上線建設
7. 調査の概要

調査区は1～3工区に区分しているが、現在は1・3工区の調査が終了した段階で、なお、調査は継続中である。このため、遺構の検出が多かった1工区に関してのみ報告する。

調査区の堆積は、上から現水田・褐灰色シルト質細砂・白灰色中砂黒褐色シルト質極細砂・黄灰色シルト（ベース）であり遺構は白灰色中砂を除いた3面から検出された。まず、褐灰色シルト質細砂では、竪穴住居址5・方形周溝墓1・掘立柱建物2・溝9・土坑・ピットが検出された。SH01は4×4mの方形を呈し、柱穴がなく遺物の出土も少なかった。SH02は径9.7mを測る円形の住居であり、中央の炉址を中心に円形に配列された柱穴と壁溝を有する。SH03は径約7mの円形である。中心に炉址があり、壁溝は方形に掘られ、6本の柱穴が検出された。SH04は円形、05は方形であるが、調査区外に延びている。方形周溝墓は約7×5mの長方形を呈し、溝内に多くの土器があったが、主体部は検出できなかった。溝はほぼ南北方向に走っており、SD01から多量の土器が出土した。これらの遺構は出土した土器より弥生時代中～後期であると考えられる。黒褐色シルト質極細砂の面では、竪穴住居址3・溝5・井戸状遺構1・ピット・水田が検出された。SH06は円形であり径7mを測る。中央ピットにはほぼ完形の壺があった。柱穴は円形に配置されていた。SH07・08は円形であるが、07は柱穴のみの検出であり、08は大部分が調査区外になっている。溝はほぼ南北方向である。井戸状遺構は上場の径が約6mを測り、深さは約1.2mである。埋土はほぼ単一な中砂であり、その上部より弥生時代前期末の壺が出土した。水田は不定形小区画水田である。これらの遺構は弥生時代前～中期である。黄灰色シルトでは、溝とピットが検出された。遺物は少ないが弥生時代前期である。

8. まとめ

1工区の北側において竪穴住居址・方形周溝墓・溝等の多くの遺構を検出したことは、弥生時代全般を通じて人間の営みが繰り返されていたことを表している。（山本）



第1図 遺跡の位置

一 角 遺 跡

1. 所 在 地 高松市林町宮西
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成 6 年 2 月 8 日～継続中
4. 調査面積 約 1,800m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山本英之
6. 調査の原因 特別養護老人ホームさくら荘建設工事
7. 調査結果の概要

地形的には、調査区北西部の25~30m四方の一角が微高地、そして微高地の南辺から東片にかけてが旧河道にあたり、微高地上では近世から現代、旧河道では弥生時代の遺構が確認できた。

微高地は、褐色砂礫整地層が厚さ20cm前後で被覆し、微高地を南、東に2~3mほど拡張する大規模な土地造成がなされ、上面の方格の溝状遺構と、擾乱坑から近現代の瓦等が多く出土している。

旧河道は、河床部に弥生時代後期を中心とする濃密な遺物包含層がみられ、近世以降は数次にわたる大規模な客土によって耕地化されている。

8. ま と め

微高地上の整地面は、文化年間、明治時代の地籍図との比較から近世寺院の吉国寺の一部と推定される。しかし大規模な造成と近現代の遺物から、近世以前の推定地はさらに北西側に求められ、旧河道も造成の前後まで廃川の名残をとどめた、低湿で生産域から外れた土地であったと考えられる。(山本)



第1図 遺跡の位置



第2図 近代～現代方形区画溝完掘状況



第3図 弥生旧河道完掘状況

史跡天然記念物屋島

1. 所在地 高松市屋島東町528番地
2. 調査主体 高松市教員委員会
3. 調査期間 平成5年7月21日
4. 調査面積 約5m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山元敏裕
6. 調査の原因 安徳天皇社内倉庫建設
7. 調査結果の概要

倉庫建設予定地の北と南の2ヶ所に1×2.5mのトレンチを設定し、遺構の有無、土層の堆積状況を確認した。

土層堆積状況は、現地表面の傾斜と同様、西から東に向かって傾斜する土層がみられ、現地表面下、約1.4m程度でベースである安山岩の風化土に到達した。遺構は確認できなかった。遺物についても近代以降と考えられる瓦等を得したのみで、古い遺物は出土していない。

8. まとめ

調査の結果、建設予定地内には遺跡の存在は確認できなかった。今回の調査地においては上方からの堆積物が厚く堆積しているため、周囲では、遺構が埋没している可能性も考えられる。今後、必要性に応じて史跡天然記念物屋島内において開発には、事前の調査の実施が必要であると考える。(山元)



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地遠景



第3図 トレッセ掘削状況

田井城

1. 所在地 木田郡牟礼町田井
2. 調査主体 牟礼町教育委員会
3. 調査期間 平成5年6月14日～17日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 牟礼町教育委員会 山内昇
調査指導 文化行政課主任技師 國木健司
6. 調査に至る経過

平成4年度後半に牟礼町教育委員会より田井城推定地の地権者が同地を整地し家屋建設を計画している旨の相談があった。今年度になり県教委職員が現地を視察したところ事業予定地には地下遺構の存在も予想されたため、保存協議資料を得るために上記日程で試掘調査及び測量調査を行った。

7. 調査結果の概要

本丸跡は南北25～30m、東西40～50m、面積約1,300m²の長方形を呈する平坦地である。東方の二丸跡、南方の帯郭跡とは約2mの比高差がある。この平坦地の西端付近と中央付近にトレーナーを設定した。

西端の1トレは擾乱が著しく遺構は残存していないかったが、中央の2トレからは多数のピット群を検出した。埋土に焼土を含むピットからなる掘立柱建物も検出している。ピットは切り合い関係も多く認められ、出土土器も13世紀から16世紀後半までの時間幅をもっている。

8. まとめ

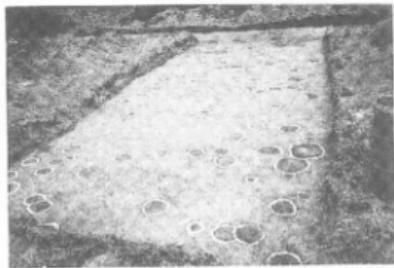
天文年間（1532～55）に中村加賀守氏宗が美濃国から移封され1580年に火災にあったと伝えられる田井城であるが、今回の調査では中村氏居城当時の遺構・遺物とともにさらに300年以上前の13世紀代の遺物も出土している。ピット群に多くの切り合い関係が認められることからすれば13世紀から16世紀後半まで連続と機能していた城跡の可能性もある。また、同時期に多くの建物跡が存在していたものと考えられ、中村氏をはじめとする有力武士の平時における居館跡であったとみなすべきであろう。（國木）



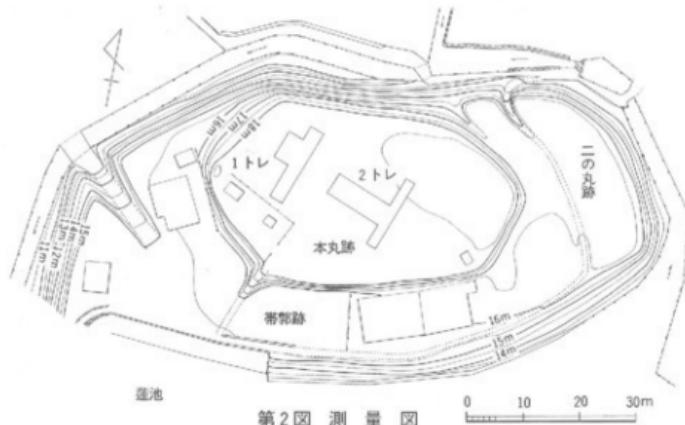
第1図 遺跡の位置



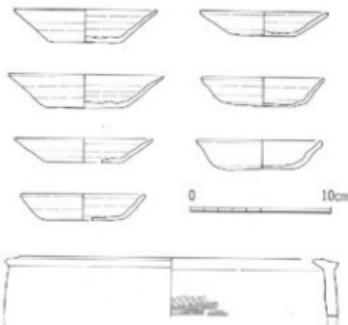
第2図 ピット群内土師器出土状況



第3図 2トレピット群



第2図 測量図



第3図 出土土器実測図

岡野松遺跡

1. 所在地 大川郡志度町大字志度48番地
2. 調査主体 志度町教育委員会
3. 調査期間 平成6年3月11日～14日
4. 調査面積 100m²
5. 調査担当者 志度町教育委員会 大高 博
調査指導 文化行政課主任技師 森下英治
6. 調査の原因 樹木伐採工事
7. 調査結果の概要

志度町真覚寺境内に樹立するクロマツは、樹高約7m、根元周囲13m。枝葉は東西34m、南北40mに亘る壯観なもので、「岡野マツ」として県指定天然記念物に指定されていた。

平成3年度よりこの松が枯渴はじめ、平成5年度には復活の見込がないとの判断のもと、指定解除の手続きがとられるとともに、寺側によって伐採工事が着手された。枝葉を落とし、根の周囲を掘下げた段階で、根の下で備前焼大甕が出土し、急遽、遺跡の発見として事前調査を実施することとなつたものである。

大甕は口縁部が打ち欠かれ、正立状態で埋置されていた。内部からは、人頭大の甕数個を伴って、成人人骨1体分が出土した。副葬品等は検出されなかった。

8.まとめ

備前焼大甕は高さ約1m、胴径約90cmの大型品で安土桃山期以後に焼成されたものと推定される。年輪から推定される樹齢は400～500年代に納まるものとされており、大甕の時期と矛盾しない。ただし、根の中心からやや東にずれた位置で出土していることから、すでに植樹された松の根元付近に埋置されたと考えることも可能であり、松との関係については、今後人骨の分析等とも併せて検討する必要がある。(森下)



第1図 遺跡の位置



第2図 大甕出土状況



第3図 頭蓋骨出土状況

3. (財)香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査状況

(1) 国道バイパス建設に伴う発掘調査事業

平成5年度の国道バイパス埋蔵文化財発掘調査業務は、一般国道11号高松東道路と一般国道32号満濃バイパスの調査を実施した。

高松東道路の調査は昭和62年より開始された継続事業で、今年で7年目にあたる。本年度は高松市前田東・中村遺跡、調査対象面積1,620m²の調査を平成5年4月より同年6月まで実施した。この遺跡の調査は、昭和63年より数次にわかれ調査を実施している継続調査で、本年度は最後の調査に当たる。この遺跡は高松平野東縁部、南北を芳岡山と前田丘陵に挟まれた谷部に位置し、縄文時代から近世までの遺跡で、自然河川出土の縄文時代後期の遺物、弥生時代中期の方形周溝墓、平安時代の大規模な集落跡など、高松東道路の調査の中でも大変注目される遺跡である。本年度の調査では、古代の掘立柱建物、用途不明の窯跡等と共に、奈良時代の軒丸・平瓦などが出土し、大変貴重な調査成果を得た。なお前田東・中村遺跡の調査の終了により、高松東道路高松市区間の調査は全て完了したことになる。

満濃バイパスの調査は昨年度から開始した事業で、ルート上には仲南町賀田岡下遺跡・満濃町吉野下秀石遺跡等が確認されている。この二遺跡のうち賀田岡下遺跡は、昨年度調査を完了しているため、本年度は満濃町吉野下秀石遺跡、8,500m²の調査対象のうち7,310m²の調査を平成5年7月より平成6年3月まで実施した。この遺跡は、丸亀平野南部、土器川西岸の標高85m前後を測る自然堤防上に展開する遺跡で、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代等の集落跡が検出された。特に古墳時代後期の集落は、竈を備えた竪穴住居跡が多数検出され、当該地域の古墳時代集落の研究を進めるうえで大変貴重な資料になった。

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
前田東・中村遺跡	高松市高松町	1,620m ²	平成5年4月12日～5年6月30日	掘立柱建物・井戸・土坑・ピット・窯跡	須恵器・土師器・縄文土器・黒色土器・瓦
吉野下秀石遺跡	仲多度郡満濃町 吉野下	7,310m ²	平成5年7月1日～6年3月18日	竪穴住居・掘立柱建物・土坑・ピット・自然河川	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・製塩土器・紡錘車
合計		8,930m ²			

(2) 県事業に伴う発掘調査事業

県事業に伴う発掘調査は3事業を実施した。1つは空港跡地開発整備事業に伴う空港跡地遺跡、2つは高校新設事業に伴う多肥松林遺跡の発掘調査である。3つは県道高松志度線建設工事に伴う小山・南谷遺跡である。

空港跡地遺跡の埋蔵文化財発掘調査は本年度で4年目を迎え、調査面積は31,305m²で、本年度末で予定されている約15万m²のうちの約98%が完了したことになる。

調査成果を以下に述べると、旧石器時代～縄文時代の遺構・遺物は本年度調査においても確認されていない。弥生時代前期では、遺跡北部において溝を検出した。この地区は平成3・4年度調査地区的西隣で遺構・遺物が少ないと予測していたが、弥生時代前期～古墳時代前期の流路状の落ち込みや溝が検出され、遺物も多く出土した。流路状の落ち込みや溝が多数検出された点は他の地区に見られない特徴で、おそらくこの付近は弥生・古墳時代は低湿地だったと推定される。この地区的南側ではこの時代の遺構・遺物が検出されていないことを考えると、流路状の落ち込みや溝は南北方向の、本年度調査地区で検出された自然河川に繋がる可能性がある。この自然河川の周囲には弥生時代後期初めの小集落が営まれている。

古墳時代中期では昨年度に引き続き、遺跡西端（II-22区）で調査を行い、この時期の竪穴住居をさらに検出した。高松平野においては当該時期の遺構・遺物が少ないため、貴重な成果と言えるだろう。

古代・中世については遺構・遺物の検出が少なく、昨年度までの所見を変更しなくてはならない知見はない。

近世以降については、II-19～22区において宅地跡や土坑が検出され、18～19世紀の土器・瓦等が多く検出された。

多肥松林遺跡の発掘調査は昨年度実施した予備調査の結果を踏まえて行なったもので、調査面積は14,010m²である。現地での発掘は平成5年4月26日から着手し、平成6年3月4日に終了した。調査体制は2班編成で、直営調査とした。

調査地の地形は中央には南北方向に延びる幅約10～15mの自然河川があり、東西両岸の微高地に各時代の集落が営まれていたようであるが、西微高地は一部しか調査を行っていないため、詳細については不明である。検出した遺構は弥生時代の竪穴住居11棟、弥生時代～中世の掘立柱建物16棟、溝、土坑、井戸などである。竪穴住居は東微高地上から検出されているが、削平をうけ柱穴のみが残るものが多いため、時期を特定することは難しい。

遺物は弥生土器（前～後期）、石器、木製品、須恵器、中～近世陶磁器等が出土しているが、量的には弥生時代中期の土器が多い。木製品は自然河川から破片も含めると約400点ほど出土した。種類は剣形木製品、広鉗・狭鉗・泥よけ具・臼・梯子・斧柄・ピッケル状木器・盆状木器・椀状木器・板材等で、弥生時代中期を中心とした時期のものと推定される。

本県では弥生時代中期の集落跡や木製品の調査例が少ないため、本遺跡の調査は貴重なデータとなるだろう。

なお調査の詳細については概報（「高校新設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡平成5年度」）が発刊されているので、参照されたい。

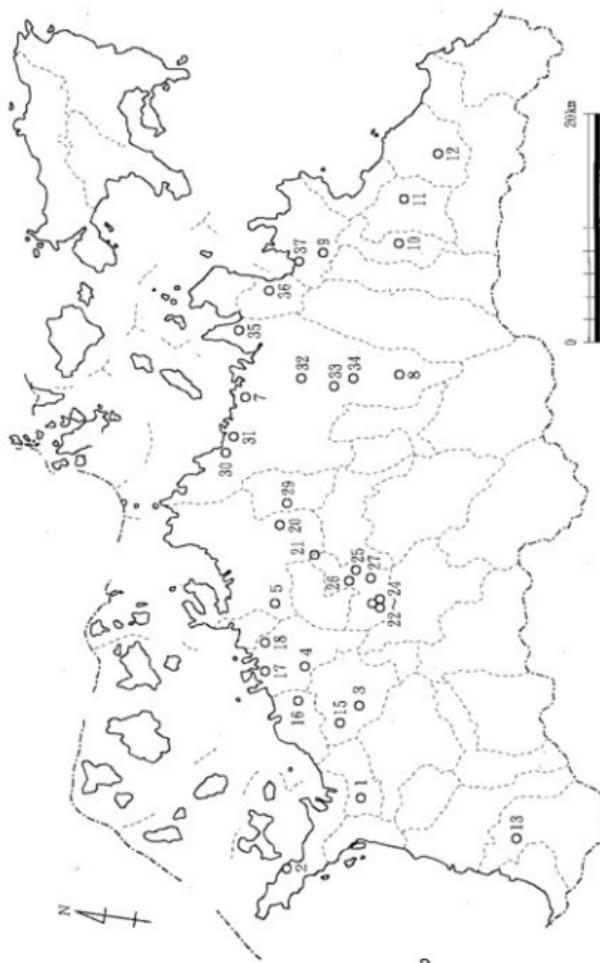
小山・南谷遺跡は高松平野の北東部に位置し、平成4年度の香川県教育委員会の試掘調査により新たに確認された遺跡である。調査は県道高松志度線建設工事に伴う調査で、平成5年4月22日より開始され、平成6年3月18日に終了した。また、今回の調査では機械掘削及び人力掘削を土木業者に請け負わせる、工事請負方式で実施した。

調査区は東より西に向けてI～III区に区分し、道路工事との関係でI区からIII区に向けて調査進めた。4月中には仮設工事、5月末よりI区から掘削作業を開始した。

I区からは当初予想していたとおり、良好な一括資料を伴う弥生時代後期前葉～中葉の竪穴住居跡群が検出された。この住居跡出土遺物は、県下の弥生土器の研究に大変貴重な資料になった。またこの資料中には、製塙土器が多く含まれており遺跡の性格を考える上で注目される。さらにII区からは、当初予想されなかった縄文時代後期の落し穴群が検出された。縄文期の落し穴の資料は、県下でも類例が極端に少なく大変貴重な資料となった。

遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	遺構	遺物
空港跡地遺跡	高松市林町	31,305m ²	平成5年4月5日 ～平成6年3月17日	竪穴住居・掘立柱建物・溝 ・土坑ビット ・土坑群	弥生土器・石窓丁・石 鏡・人形土製品・須恵 器・土師器・近現代陶 磁器
多肥松林遺跡	高松市多肥上町・ 多肥下町	14,010m ²	平成5年4月26日 ～平成6年3月4日	竪穴住居・掘立柱建物・溝 ・土坑・井戸 ・自然河川	弥生土器・石窓丁・木 製品(彫形木製品・鍼 ・臼・梯子他) 須恵器・陶磁器
小山・南谷遺跡	高松市高松町	10,000m ²	平成5年4月22日 ～平成6年3月18日	竪穴住居・掘立 柱建物・土壤基 ・溝・土坑・ビット ・自然河川	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・石器

1. 宮市遺跡
2. 梶原田遺跡
3. 旧陸兵地盤跡・後ノ宗遺跡
4. 平治南遺跡
5. 川瀬六反塙遺跡
6. 清宮遺跡
7. 寒松塙跡
8. 竹元塙跡
9. 八丁塙遺跡
10. 石田高校校庭内遺跡
11. 富田茶臼山古墳
12. 仲善寺遺跡
13. 角塙
14. 富沢古墳群
15. 青龍古墳
16. 南鶴城跡
17. 丸龜城跡
18. 青ノ山南支群 2 号墳
19. 大堀塙跡
20. 馬糸子山遺跡
21. 楊山廻寺
22. 大塚
23. 宇摩神社古墳
24. 宮道遺跡
25. 薬師山古墳
26. 行末塙跡
27. 庄塙跡
28. すべてと塙跡
29. 空塙跡
30. 勝主山古墳
31. 鯨尾塙跡
32. キモンドー遺跡
33. 日暮村木道遺跡
34. 一角塙跡
35. 史跡天然記念物星島
36. 田井城
37. 国野松谷遺跡



調査対象遺跡位置図

香川県埋蔵文化財調査年報
平成5年度

平成6年3月31日 発行

編集 香川県教育委員会事務局文化行政課

高松市番町4丁目1番10号

電話 (0878) 31-1111

発行 香川県教育委員会

印刷 純成光社